

茨城国体新聞

いきいき茨城ゆめ国体いきいき茨城ゆめ大会特別号

松葉杖で歩きたくて歩いているわけじゃない。

茨城国体の開催を機にはじまったこの学生ジャーナリストの活動。そこには四肢不全麻痺という原因不明の理由で松葉杖生活している仲間がいる。梶山君(18)。2年間、松葉杖生活を送っていたが今年の三月下旬、病院の先生に「卒業できそうだね」と言われたそう。しかし待っていたのは過酷なりハビリの毎日。関節を曲げたり動かしたり、一見簡単そうだが梶山君にとってはとても大変なこと。しかし梶山君は痛かった時もあつたけど二年間一生懸命治そうとしてくれた先生に感謝できなかったし、頑張れました。といった。

「僕自身も松葉杖で歩きたくて歩いているわけじゃないってことを周りのみんなに理解してほしい。からかったりせず助けてあげてほしい。」梶山君は松葉杖生活についてこう振り返った。階段の上り下りはかなり大変で学校ではエレベーターがないことに疑問を抱いた。なぜ松葉杖なのかと問われても、「原因不明だから」と答えるほかなかった。陰口を言われていた時期もあったという。私はこのような現実を聞き悔しくなった。なぜ健康体の人間が優位にたってしまうのか。なぜ身体に傷を抱えている人間がからかわれてしまうのか。私は手を差し伸べずからかうことを選んだ者たちを鼻で笑ってからかい返したい。私たちは傷を乗り越えようとしている人たちの傍で支えるべきなのではないか。手を差し伸べるといことは勇気のことかもしれない。しかしその勇気さえあれば助かる人がたくさんでくるはずだ。私たちは進んで、支える、ということ常々考え生活する必要がある。



代表であること再確認

9月28日(土)いきいき茨城ゆめ国体いきいき茨城ゆめ大会の開会式が行われた。様々な年代の参加者が茨城国体のイメージソングを披露し会場は盛り上がりはじめた。皇后両陛下がお見えになり式典前演技がはじまると県立大洗高校のマーチングバンド部による圧巻のパフォーマンスが始まり観客は目を奪われたことだろう。会場が盛大に盛り上がったところで全国の選手が入場してきた。都道府県ごとに異なる色鮮やかなユニホームを身につけ、旗やぬいぐるみを掲げて手を振る。私が開会式の中で一番印象に残ったのがこの後だ。先頭の北海道が地域の小学生の席を通ろうとした時、北海道と書かれた横断幕が現れ、そしてたくさんの小学生が大きな声で「がんばれ北海道!!」と響くバルーンスティックの音とともに声援を送った。小学生の元気な声は会場全体に響き渡り国体の開催を改めて実感させた。47のすべての都道府県に変わらない元気と声援を送り続けた小学生がとても素敵だった。実際に私と同じ高校で国体に出場した選手に話を聞いたところ、「声援というのは自然と元気がでるし、頑張ろうと思った。都道府県名で応援されたから、どの選手も県の代表であることを改めて再確認できたのではないかなと思う。」と話した。声援を送ることの大切さ、そして素敵さを実感した一日となった。

ボランティアのチカラ

昨年の福井国体から活動している私は今回の茨城国体の視察の際、ボランティアの方がいたるところにいるように感じた。実際調べてみたところ福井国体のボランティアは2000人での運営、茨城国体では倍の5200人での運営だったそう。ボランティアの方の元気な挨拶親切な対応。茨城国体開催においてボランティアの方の力が大きく関わっていただろう。駅前で訪れた方々に案内をしているボランティアの方にお話を聞いたところ、「茨城県民として何かしら参加したかった。」「国体には出場できないけどお手伝いはできるかなと。」といった声があった。このように意思のある人たちが積極的に行動に移すことでボランティアとして物事を成功させるチカラになるだろう。自身もこれからもボランティアとしての活動に積極的に活動しチカラになりたい。

